

## 結果のまとめ

- UNSCEAR による推定甲状腺吸収線量は、理論的な計算による事故後1年間の外部被ばく線量+食品(水道を含む)からの甲状腺吸収線量+吸入被ばく線量 (mGy) の推定値である。
- UNSCEAR 2020 報告書による推定甲状腺吸収線量と、本格検査(検査4回目)までの甲状腺がん(疑いを含む)との関連については以下の通りであった。
  1. 先行検査(横断調査)において、甲状腺検査対象者全体の推定線量の分布に基づいて四分位に分類した解析では、第1四分位の群に比べて第4四分位の群で性・年齢・検査年度を調整したオッズ比が有意に低かった(資料2-1図1)。また、線量が高くなるほど甲状腺がん(疑いを含む)発見率が低くなる関係(量反応関係)が認められた。
  2. 本格検査(検査2回目)(横断調査)において、甲状腺検査対象者全体の推定線量の分布に基づいて四分位に分類した解析では、第1四分位の群に比べて第3四分位の群で性・年齢を調整したオッズ比が有意に高かった(資料2-1図2)。しかし性・年齢に加えて検査年度・検査間隔を調整することによりオッズ比は低下した(資料2-1図2)。なお量反応関係は認められなかった。
  3. 本格検査(検査3回目)(横断調査)において、甲状腺検査対象者全体の推定線量の分布に基づいて四分位に分類した解析では、有意な関連は認められず、量反応関係も認められなかった。
  4. 本格検査(検査4回目)(横断調査)において、甲状腺検査対象者全体の推定線量の分布に基づいて四分位に分類した解析では、有意な関連は認められず、量反応関係も認められなかった。
  5. 本格検査(検査2回目から検査4回目までの本格検査累積)において、甲状腺検査対象者全体の推定線量の分布に基づいて四分位に分類した解析では、有意な関連は認められず、量反応関係も認められなかった。